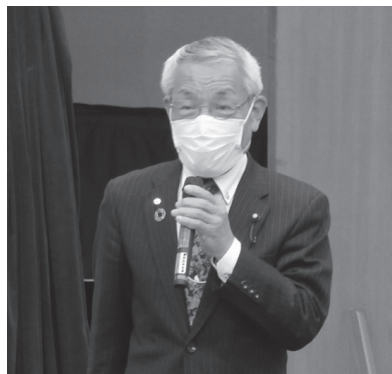


町公民館だより

編集 日野町公民館 〒689-5131 日野町黒坂1243番地1
電話：74-0212 FAX：74-0105
E-mail：kouminkan@town.hino.tottori.jp

1年間の学習成果の集大成

▼おしどり学園閉講式



▲「ふるさとを想う心を大切に」と小谷さん

3月24日、おしどり学園の閉講式を開きました。

おしどり学園長の神庭公民館長は、「コロナ禍の中、皆さんはおしどり学園生として1年間受講し、人と人のつながりや生きがいを大切に学習してきました。来年度も全員が受講し、これまで磨きぬいてきた人生を、さらに実りのあるものにしてください」とあいさつ。学園生全員に修了証が渡され、4月から休みなく参加した4人に皆勤賞が贈られました。

式典後は、「まほろばの郷土語り 継ぐ上菅・福長の伝承と歴史」と題して、里山元気塾長の小谷博徳さんが講演を行いました。

小谷さんは、令和2年に同タイトルの本を出版。地域の語り部の記録として、地域に伝わる歴史や

神話、伝説、神社、仏閣など、あらゆることを文字に残すことを考え、企画から40年の歳月をかけて本にまとめました。

その本の中から、今も残る神社や跡地などをピックアップし、写真などを紹介しながら解説していきなりました。学園生は、昔からの言い伝えなどにならずながら、学習が深められた講演会となりました。

小谷さんは「皆さんには、ふるさとの歴史を子や孫に語り継ぐ、あるいは文字に残しておくことをお願いします」と締めくくりました。

令和4年度おしどり学園生募集

町内の誰でも気軽に参加できる生涯学習の場です。年齢制限などはありません。皆さんの参加をお待ちしています。

期間 / 毎月1回(第3金曜日。ただし3月は別日)

場所 / 町公民館(当日は町営バスを臨時運行)

内容 / ▼一般教養講座 ▼グループ専門講座 ▼

町外研修…9月16日(金)に町外で研修を行います。

特別展示

河野利晴写真パネル展

「甦った大山の避難小屋」

3月4日から28日まで、町公民館1階ロビーで、「河野利晴写真パネル展 甦った大山の避難小屋―工事に汗を流す人たち―」を開催しました。

この展示は、元新聞記者で自然公園指導員でもある河野利晴さんによる記録写真のパネルにしたものです。

古くなった大山の「頂上避難小屋」や「六合目避難小屋」「頂上木道」の改修工事、「大山頂上碑」移転工事と、さまざまな作業に携わった人々の苦労をわかってほしいとの河野さんの熱い思いが込められた企画展となりました。



共催：鳥取県立大山自然歴史館

展示作品を見た人からは、「毎日大山山頂に登って工事をされたなんて信じられません」「大変な苦労があっただんですね」「工事に携わった人々の苦労に感謝しながら、もう一度大山に登ってみたいです」などの感想が寄せられました。

第2回おしどり学園のご案内

日時 5月20日(金) 午前9時30分/場所 町公民館講堂

内容 講演

演題 「甦った大山の避難小屋―工事に汗を流す人たち―」

講師 元新聞記者・フリーカメラマン 河野利晴さん

【問合せ・申込み】町公民館(74-0212)

令和3年度 卒業式

3月11日に日野中学校で、18日に黒坂小学校と根雨小学校で、令和3年度卒業式が行われました。今年度も、新型コロナウイルス感染症対策のため、式場内の人数を減らしたり、式の時間を短縮したりして行われました。



日野中学校の卒業式にあたり、安達才智校長先生は、

「皆さんは自分らしさを磨き、それを遺憾なく発揮して、日野中生としての自覚と誇りを身に付けました。そんな皆さんの姿で、特に感嘆したことを3点お話しします。

1つ目は、役者が多く、文化人が多いことです。2つ目は、快活で気力にあふれ、活動的などころです。3つ目は、自主の心を強く持っていることです。皆さんは、日野中学校の歴史の38ページ目に、新たな色で歴史を加えました。この歴史は、きつと日野学園に引き継がれる伝統になるでしょう。

皆さんも、日野中学校の校訓、向学、友愛、誠実、自主の精神を胸に、前へ前へと進んでください。自分を褒め、自信を持って自分を磨き、「幸せだなあ」と思える人生を切り拓いてください。そして、心の片隅に日野中の、また日野町の心を持ち続けてください」と、式辞を述べました。

在校生を代表して、住友迅太さ

んは送辞の中で、

「先輩たちは学校行事や専門委員会、部活動や日々の学校生活の中で、さまざまな姿を見せてくださいました。いつも頼りになる先輩方のその背中が、私たちのお手本でした。

先輩方が、よりよいものにしてこられた学校の「活気」を、さらにより強くし、「活気と元気、笑顔」にあふれ、みんなの記憶に残る日野中学校をつくっていきます」と述べました。

卒業生を代表して、小倉啓太郎さんは答辞の中で、

「3年前の4月、中学生になったという高揚感と、うまくやっていけるのかという不安に感じる気持ちでいっぱいだったことを覚えています。

最後まで支えてくださった先生方、温かく、そして丁寧にご指導ください、ありがとうございます。ぼくたちを育ててくれた家族には感謝の気持ちでいっぱいです。在校生の皆さん、私たちを信じてくれてありがとう。3年生の

みんな、みんなと過ごした一瞬一瞬は、かけがえのない輝かしい宝物です。仲間とともに扉を開け、新たな一歩を踏み出していきます。3年間ありがとう」と述べました。

黒坂小学校では、下村敏彦校長先生が、

「卒業証書は、皆さんがこの黒坂小学校で日々重ねてきた努力の証です。自信と誇りを持って中学校に進学してほしいと思っています。皆さんは4人で相談し、支え合いながら、一つ一つの困難を乗り越えてきました。その積み重ねが、皆さんの今日の立派な姿につながっているのです。

4月からの中学校生活では、小学校とは違う環境の中で困ることもあるかもしれませんが、そんなとき、自分の力を信じて一歩踏み出し、前進してほしいと思っています」と、式辞を述べました。

根雨小学校では、山田二郎校長先生が、

「皆さんは、4月からは義務教育のまどめの段階である中学校へと進みます。夢の実現に向けて、時間を無駄にせず、一日一日を大切に過ごしてください。いつまでも、ふるさとを大切にできる気持ち、忘れないうでください。皆さんは、たくさんの人に支えられて生きています。そのことは、決して忘れてはいけません。卒業生の皆さんには、「夢」「ふるさと」「感謝」の3つをはなむけの言葉といたします」と、式辞を述べました。

教育長あいさつ

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。数年来のコロナ禍にあつて、今まで通りの学校生活が送れず、いろいろな思いで日々を過ごされたことと思います。でも皆さんは、仲間や家族、先生方とともに困難を乗り越え、無事卒業の日を迎えられました。この経験を、これから始まるそれぞれの学校生活に活かしてほしいと思います。

これからの社会や地域は、皆さんが創っていきます。夢を持ち、日野のまちを愛し、人を、命を大切にする人になってください。応援しています。

保護者の皆さまにおかれましては、お子さまが門出の日を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。また、日ごろから子どもたちを見守ってくださいました地域の皆さまに深く感謝申し上げます。お祝いの言葉といたします。

日野町教育委員会教育長

生田 求